
通り雨がやむ頃に

まなつか

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

通り雨がやむ頃に

【Nコード】

N9049U

【作者名】

まなつか

【あらすじ】

学校帰りの僕と七咲は商店街に寄る事になった。

寒い寒いその日、僕はぬくもりを求めていた

「先輩、おまたせしてすいません」

ぼーっと下校している生徒を寒い中ポケットに手を突っ込んでいた僕はその柔らかな女性の声で振り返った。

「七咲、どうだった？」

「んー、今日は0.1秒だけ縮まりました」

「おお！ すごい進歩じゃないか！」

「いえ……そんなことはありません」

七咲は少し照れたようにうつむいてつま先で地面を蹴った。

「そ、それより今日は商店街の方に行くんじゃないんですか？」

「ああうん。それじゃあ行こうか」

「はい」

七咲の歩く速さに合わせながら僕は歩く。

手袋をしていない手は冷気にさらされて冷たかった。七咲が温めてくれたらなあ！

『先輩、私が温めてあげますよ。こ・こ・こで』

『ななななな七咲っ！？ そういうのはまだ早いよ！？』

『いいじゃないですか。温かいんですし』

『……うん、たしかにそれもいいかもな』

「何がいいんですか？」

「七咲の……って、うわ、独り言言ってた!？」

「はい、思い切りつぶやいていました。やめてください」

「じ、ごめん……」

そうこうしているうちに商店街についた。

「わあ！ 見てくださいこのマフラー、温かそうですね」

「うん……」

(きつと七咲の服の下のほうが暖かいに違いない)

「先輩、あそこでたい焼きでも買って食べませんか？」

(七咲のほっぺたもふにふにしておて柔らかそうだな)

「先輩！ 聞いてますか!？」

「あ、うん、聞いているよ」

「……先輩、顔がエッチです」

まさかばれているなんて、そんなわけないだろう!？」

そんなことでオタオタしていると頭に冷たいものがピトッと触れた。

「ひゃっ!？」

七咲が可愛らしい声を上げる。

「雨だ……」

「先輩！ 早くこっちへ」

「あ、ああ」

雨は次第に強くなっていった。

僕らは公園のベンチに腰を掛けた。ここだけ屋根が付いているので濡れる心配はない。

サーッと静かに振り続ける雨。

それをぼーっと見上げている僕と七咲。

「……先輩」

「ん?」

「どうして先輩は私と付き合っただんですか？」

「うーん」

いきなりそんな話をふられて正直戸惑った。

だけど僕が言うことは素直に思ったこのことだと思っ

「七咲が好きだから だよ」

「先輩……」

視線が合う。

「私も、好きです。先輩のこと！ いつまでも、ずっと。だから、先輩も私のこと、ずっと好きでいてください」

「うん……いいよ」

「先輩」

ふっと七咲が寄ったかと思うと冷えた唇に温かい感触を感じた。
プールの塩素の匂いがふっと鼻につく。

「大好きです」

「七咲、僕もだよ」

丁度その時、通り雨がやみ、空が晴れていった。

「先輩、たい焼き買って帰りましょう」

「うん」

七咲の服の下よりも暖かく、七咲のほっぺたよりも柔らかいものは
そこにあつた。

(後書き)

七咲かわいいよ七咲。

ちゅっちゅしたいよ七咲！

ああああ、七咲可愛い！

どうも、まなつかです。

どうやら重症患者になってしまったようです。

だけど七咲は可愛いんです。

こんな後輩が欲しかった。

タイトルですが、アマガミSSのサウンドトラックをDMMで借りてそのなかでお気に入り曲『通り雨がやむ頃に』から取りました。めっちゃいい曲なので是非、聴いてみてください。

それでは、また。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9049u/>

通り雨がやむ頃に

2011年7月19日20時31分発行